

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【安塚区】意見交換の内容

開催日：令和 8 年 5 月 27 日（水）

会 場：安塚コミュニティプラザ

参加者：49 人

（参加者）

市長の公約にあるトイレの改修について質問します。上越市を代表する施設のリージョンプラザ上越や上越文化会館の男子トイレは貧弱です。個室は狭い上に便座も低く、ウォシュレットは付いていません。係の方からウォシュレット付きトイレを案内され行ってみました。室内照明が付いていませんでした。私は、市や県が管理する公共施設のトイレが古いままだと思います。

市長の公約であるトイレ改修は立派なことだと思います。今は大腸癌の患者が非常に増えている現状もありますので、公共施設のウォシュレット付きトイレ改修をぜひお願いしたいと思います。

（市長）

リージョンプラザ上越は今年、大改修をするので、トイレもきれいになると思いますが、私も実際に行ってみて、ひどいトイレだなと感じています。上越文化会館のトイレは狭いこともあり、できるだけスピード感を持って改修を進めていきたいと思っています。トイレ改修は、国土交通省の新しい指針も踏まえ、ユニバーサル仕様で誰もが使いやすいようにします。女性用トイレの数が足りない点への対処も踏まえて進めたいと考えています。

ひとまず今年度は、4 年後の上杉謙信公生誕 500 年に向けて、春日山周辺や駅のトイレ改修を中心に進めていますし、今後も大事なプロジェクトとしてスピード感を持って取り組みたいと思っています。

（参加者）

「将来の産業労働を担う子どもたちの学習」について、市長は子どもたちを中心に考える方針を出されていることや、上越市には良いところがたくさんあると話されていることから、私は、大人だけでなく子どもたちの目線で、市内のいろいろな場所を見てもらうことが、子どもたちが大人になった時に市の発展について考えることになると思っています。

予算的な制約はあると思いますが、校外学習バスの運行には抑制傾向があると聞いていますが、安塚区だけでなく上越市全体の子どもたちに、いろいろな所を見てもらえるような予算編成をしていただき、上越市の良いところをもっと知ってもらえる機会を増やせば、上越市の発展につながると思います。

（市長）

子どもたちが、野外活動や校外活動をすることは大事なことです。今もそれらの活動を行

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【安塚区】意見交換の内容

っておりますが、拡充することは大切なことだと思いますし、私も全く同意見です。

（総務部長）

先ほどスクールバスの運行について抑制傾向があるという意見がありましたが、実はスクールバスの運行は、合併前上越市と 13 区では公平感に欠ける状況がありました。合併前の上越市では、スクールバスの運行があまりなかったのに対し、13 区はもともとスクールバスを持っていて、比較的自由に使われていたという状況でした。

最近ではバスの運転手の確保が難しいことや、予算的な制約ももちろんありますが、それ以上に、校外学習も大事ですが普段の授業もしっかり行ってほしいという思いがあります。校外学習はとても良い取組ですが、学校側の負担にも配慮する必要があることから、校外学習を行いつつ、普段の授業もしっかり行うということで、一定の線引きをしたという状況です。

ただ、私どもも校外学習の有効性については理解をしておりますし、特に上越市にはいろいろな良いところがあると考えていて、そうした場所を子どもたちにしっかり見てもらいたいという気持ちは同じですので、必要な場所に行くための予算は確保しております。また、地域の中で何か子どもたちに見せたいものがある場合は、地域振興関係の予算もありますので、総合事務所へご相談ください。私どもは、子どもが一番大事という考えで柔軟に対応してまいります。

（参加者）

昨年、私が所属している市内の NPO 法人の主催により、上沼道（上越魚沼地域振興快速道路）の見学会を行いました。特定非営利活動法人 NPO 雪のふるさと安塚に協力をお願いし、進捗状況の説明や工事中の上沼道の見学を県へお願いしました。

私も所属するサークル内で参加を呼びかけたところ、安塚小学校に通う児童のお母さんが、「平日なので仕事で自分は行けないが、子どもには道路ができる過程を見せてあげたい」との思いから校長先生に直談判をされたようです。学校内で相談をされた結果、校長先生から私どもに見学会への児童の参加について相談があり、5・6 年生の児童が見学会へ参加することになりました。

見学会の後、参加した 5・6 年生の感想文が私ども NPO 法人に届きました。感想文には、「将来このような仕事に就きたい」とか「外国製の重機を初めて見た感動を忘れない」など、子どもたちならではの感想があり、喜びの声を聴ける体験をしました。

先ほど説明があったように、校外学習は学校だけで実施するには負担が大きいかもかもしれませんが、地域の NPO 法人や団体と協力して実施すれば、もっと子どもたちに地元にあるもので良い体験を提供できるのではないかと思います。

（安塚区総合事務所長）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【安塚区】意見交換の内容

昨年行われた上沼道見学会に私も参加しました。大変参考になる見学会だったと思います。

（市長）

実際の体験は本当に感銘や感動が大きいです。実体験と学校での普段の基礎学力や教養を、バランスよく取り入れていくことが重要だと思います。学校だけで対応が難しいときには外部の NPO 法人や団体に協力をいただくことは大事なことだと思いますし、総合事務所とも相談して進めていきたいと思っています。

（参加者）

市長の公約に「多世代交流プレイス」が掲げられており、安塚区で行うとなると運営面など難しさがあるように思います。昔は高齢者と子どもたちが一緒になって交流し、地域で子どもを育ててきた経緯がありました。多世代交流プレイスについて、もう少し具体的なイメージを聞かせていただければと思います。市民プラザやオーレンプラザには小学生などの遊びのスペースがありますが、遊具で遊ぶだけで使い勝手が非常に悪いです。妙高市の「わくわくランドあらい」へ行くことがあります、子どもも親も祖父母も一緒に一日過ごすことができます。この施設はコンパクトではありますが、飲食の持ち込みができ、地元の人が講師になって毎週いろいろな体験を開催したり、読書の部屋があったり、室内スライダーやクライミング遊具などもあります。安塚区や浦川原区、大島区の人に会うことがあります。上越市にはそのような場所が一つ也没有。市長が言われる多世代交流の拠点施設はそういった施設とイメージがマッチするのか分かりませんが、ソフト面とハード面を合わせた施設として市内に1、2か所あってもいいのではないかと思います。

（参加者）

今ほどの「わくわくランドあらい」は民間施設でしょうか。それとも公共施設でしょうか。

（参加者）

公共施設です。

（市長）

「多世代交流プレイス」の運営については、今、いろいろなアイデアを提案いただいています。例えば駄菓子屋があってもいいと思いますし、ハード面については、遊具を整備すべきと思っています。現在、オーレンプラザや市民プラザの遊具は、乳児を対象としたものであり、児童・生徒の皆さんや高齢者の方など、いろいろな世代が一堂に集える場がありませんので、整備をしたいと考えています。スペースとしては、乳児が遊べる場所と児童・生徒が遊べる場所を分け、いろいろな遊具やゲーム、Wi-Fi など必要なものを整備したいと

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【安塚区】意見交換の内容

考えています。

スタッフは常駐職員のほか、保育士や保健師の配置が必要であると思いますし、運営については業務委託で行いたいと考えています。地元の皆さんを中心に、いろいろなグループから集まっていただき、運営団体を設立して、その団体が中心となって運営するようにお願いをしたいと考えています。もちろん、その委託団体に任せきりではなく、市も伴走して支援していきます。

その施設では、いろいろな物事ができると思っています。高齢者には、お互いの経験を話す場や囲碁・将棋などの趣味の場やお茶を飲む喫茶室があってもいいと思います。図書室、自習室など、いろいろなアイデアを寄せてもらいたいと思っています。これで少しイメージを持っていただけますでしょうか。

（参加者）

オーレンプラザのように中途半端な施設ではなく「わくわくランドあらい」のような、もう少ししっかりした施設が設置できれば良いと思います。遊具関係は整備される全施設ではなく、13区のうち5区くらいを拠点施設として整備する方が良いと思います。

（市長）

オーレンプラザの遊具については幼児向けですので、対象範囲を拡大するような遊具整備が必要であると思っています。

子どもの人数が極端に少ない地域もありますので、「多世代交流プレイス」を13区すべてに置くことはあまり現実的ではないと思います。隣接する2、3区の中から、交通の便などを考慮しつつ、1か所を選定し整備することが現実的な方法であると思います。

（参加者）

安塚区に関連する主な取組に、旧安塚中学校の利活用という項目があります。先日この会場で事業者から説明を聞き、期待しているところです。

旧安塚中学校のそばにリバーサイドロードがあり、春は桜、秋は安塚区の花であるヤナギバヒマワリが咲きます。私どものNPO法人では、ヤナギバヒマワリの開花に合わせて毎年イベントを行っており、このイベントの来場者に対しクルマエビの試食などを通じてPRをしたいと考えています。事業者からクルマエビを提供していただけるように、市長から手立てをしていただければありがたいです。

（安塚区総合事務所長）

旧安塚中学校でのクルマエビ養殖については、先ほど市長が説明したとおり6月議会で議案が上程される予定です。事業者の説明会では、皆さんの期待する点や不安に思われている点について質問があったかと思いますが、今ほどはクルマエビの用途やPR方法などのご

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【安塚区】意見交換の内容

意見やご提案をいただきました。

（参加者）

地元町内会で行われた説明会で、積極的に地元に貢献したいということで、イベントでも何でも出します、と明言されていたので共有します。

（市長）

基本的にはクルマエビは地元で消費してもらいたいというお話ですので、先方もお祭りなどで喜んで提供してくれると思います。ただ、タイミングとして今年度は難しいかと思います。早くて来年の秋くらいではないでしょうか。ご意見のあった点については心配はいらないと思います。

今、私がお願いしているのは、クルマエビに良い名前をつけてほしいということです。皆さんも良い名前のアイデアはありませんか。ユキムロクルマエビとかどうでしょうか。

（参加者）

私は以前より地域活性化でいろいろ取り組んでいたことがあります。大島区でゆるキャラを作ったときは、名前やイラストをコンテストにして、住民に参加をしてもらい盛り上げました。それから、先ほど話に出たヤナギバヒマワリのイメージソングを作るために、安塚区内で作詞コンテストをしたこともあります。クルマエビのゆるキャラを作るかどうかは分かりませんが、名前を子どもたちから公募するなど、いろいろ取り組むと盛り上がると思います。

（市長）

事業者と相談しながら地元で盛り上げていけるといいですね。

（参加者）

観光振興については、インバウンドの誘客促進と連続テレビ小説 NHK「風、薫る」を活用した観光推進とありますが、「風、薫る」をどう観光推進に結びつけるのでしょうか。観光誘致をしても一過性のもので、過去の例を見ても、上杉謙信公関係の催しのときに多少は観光者が来たものの、今はほとんどいません。また、郵便の父である前島密の前島記念館に行っても誰もいないという状況です。

ところが、長野県に行くと何でもないところにも人が集まっているので、行政の「てこ入れ」の違いを感じます。民間の力が主になりますが、そこに行政としてどう「てこ入れ」をして観光に活用をしていくのか。今のままだと、「風、薫る」での観光推進は難しいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【安塚区】意見交換の内容

（参加者）

観光振興と市長が掲げる「産業いきいき」という視点が当てはまるのではないかと思いますので、確認と提案としてお話をさせていただきます。

県は令和7年から新潟県をアニメ文化と産業の拠点にすることを目指して、官民連携の組織「新潟アニメ推進協議会」を設立しました。これに関して上越市がどう関わっていくのかが関心事項です。提案ですが、アニメ制作の推進に閉校となった学校を活用できないでしょうか。特に中山間地域がメインになると思いますが、閉校となった学校をうまく活用して、アニメ制作の推進拠点にできないかと考えています。理由としては、そうした閉校となる学校は中山間地域に多く、交通の雑音や営業・産業騒音がないなど、環境として静かで良いのではないかと思いますし、施設面では防音設備のある音楽教室があることや、教室が区切られた部屋になっている点で、アニメ制作に対応が可能ではないかと考えられるからです。一方でデメリットもあり、中山間地域は交通面や制作者の住居面に課題があることについて、ご意見を伺いたいと思います。

（安塚区総合事務所長）

ただ今のご質問と提案については「産業いきいき」という同じカテゴリーであると思いますが、整理しますと、一つ目はインバウンドやNHKの連続テレビ小説を使った観光推進について、市長はどのように考えているか、というご質問であり、二つ目は、産業の話としてアニメ制作への関心が高まっているので、企業等を誘致してはどうかというご提案であったかと思います。改めて観光振興についてご意見やご質問があれば、ご発言をお願いします。

（参加者）

観光について、少し夢のようなお話しになるかもしれませんが、春日山の頂上にお城を造るという提案です。お城を造るにはお金がかかると思いますが、上越市へ大勢の観光客が来てくれるようになればよいと思っています。

お城を造るには、多額な予算がかかるかと思いますが、5、6年前に春日神社の改築工事において、約1億6千万円の工事費が寄附で集まったというお話を聞きました。それだけの寄附金が集まるのであれば、上越市のますますの発展のため、お城造りに100億円をかけてもよいと思います。

（参加者）

地域で頑張っていることを市長にお伝えしたいと思います。先日、5月8日に風間祭という祭りを開催しました。この祭りは標高334メートルにあった直峰城という城跡が会場で、城は南北朝時代の武将である風間信濃守（かざましなののかみ）が建てたものであり、何十年にもわたり風間信濃守を称えることを目的として祭りが行われてきました。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【安塚区】意見交換の内容

私が中学生のころは、学校が午後から休校となり、直峰城の山頂で地域の人たちが集まって、出店があったり大人たちはお酒を飲んだり、賑やかにお祭りが行われてきました。そうしたお祭りはだんだんと出来なくなってきましたが、風間信濃守の法要という意味で、現在も毎年5月8日に行っています。今年も安塚地区の官公庁や事業所、町内会から約30人の来賓があり、無事にお祭りを行うことができました。

この、風間信濃守を縁として、その菩提寺である横浜市妙法寺と約40年に渡り交流を行っています。また、直峰城の第8代城主である樋口兼豊を縁として、米沢市の直峰町とも40年以上交流をしています。さらに、風間姓を縁として、長野県にある風間神社の関係で、「風間氏の会」とも交流を行っています。市からの補助もありますが、何とか地域の伝統文化を後世に残したいと思っています。市長が来られたので、地域が微力ながら頑張っていることをお話させていただきました。

駐車場から直峰城に登るには、15分から20分かかりますが、山頂に風間信濃守の石碑があります。結構大きな石碑で、大正15年2月に建立され、昨年で100年を迎えました。山頂まで登って見ると、ここまでどうやって石碑を上げたんだろうと疑問に思います。地元の有志の人にどうやって上げたのか聞いたところ、おそらく2月頃、松崎方面からソリを使って雪のあるところで上げたのではないかという話を伺いました。現在、山頂祭は行っていないですが、機会があれば登っていただければありがたいと思います。

（市長）

観光の進め方については、まさに今、新しいやり方を考えておりますが、今のお話のようにストーリーを作らないとだめだと思います。

例えば、謙信公の城巡り、春日山城や直峰城、鯨ヶ尾城などの支城がありますが、そういう所を紹介しないといけないと思います。他にも、親鸞聖人であれば居多ヶ浜に始まりゑしんの里があります。先日、安塚区にお邪魔した時に親鸞聖人と恵信尼の娘（小黑女房）が建てたと言われる立派なお寺（専敬寺）がありましたが、そういうストーリーを作って、「点」ではなく「つながり」として知ってもらうことが大事だと思います。そして知ってもらう方法については、SNSを使う必要があると思います。パンフレットを作って終わりというのは全く意味がないと思いますし、インスタグラムなどのウェブ媒体も使うべきです。また、それらの紹介は英語でも作るべきだと思います。最近のAIを使用すればすぐに出来ますから、それを載せれば全世界を相手に紹介が出来ますし、マーケットは大きく拡大すると思います。これまでは、あまり宣伝をしてきませんでしたが、前向きに観光客を誘致していきたいと思います。

アニメの利用については、検討したいと思います。場所は廃校に限らず、パソコンがあればできると思いますので、上越市にもそのような方々から来ていただけるよう、県と一緒にやっていくことについて検討させていただきたいと思います。実際に私も上越市でパソコン一台でアニメなどを作っている方にお会いしたことがあります。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【安塚区】意見交換の内容

また、春日山にお城を建てる提案は、私も同様の思いがありましたが、結論としては難しい状況です。春日山城跡は国の指定史跡のため、開発することができないことと、実際にどのような建物があつたのか分からないからです。ただの見せ物のようなお城を作っても意味がないと思いますし、一説によると、平屋のような建物しかなかったという話もあります。ただ、何もしないわけではなく、一番春日山城跡が見える謙信公の銅像がある付近の見栄えを少し整備して全体の構えをきれいにしたいと思います。今、木を切って何があつたか分かりやすくなっています。

史跡といえば、三郷区で昔の国分寺跡が見つかりそうです。歴史的に注目されると思っています。あと、謙信公の関連では春日山の裏に岩殿山がありますが、謙信公が拝んだとされる大日如来坐像や春日山城の支城である沖見砦がありますし、神話の世界で皆さんもご存知かと思いますが、大国主命（おおくにぬしのみこと）と奴奈川姫（ぬなかわひめ）が結婚して岩殿山に住んでいたという伝説もあります。その息子は諏訪大社の起源とされている建御名方命（たけみなかたのみこと）です。

日本人でも外国人でも、特定の分野を突き詰めてよく知っている方がおられますので、そのような方々をターゲットにして、いろいろなルートを紹介することが大事であると思っています。

（参加者）

旧安塚中学校の利活用については、安塚区地域協議会においてデータセンターの誘致ができないかという提案をしました。いろいろと検討してみて、難しいという結論になりました。もし市長に意欲があれば、データセンターは世界的にも必要であると言われていますので、誘致を検討されたらどうかと思います。

（参加者）

この地区は、年々、荒廃地が増えてきているのが現状だと思います。荒廃地が増えると災害が発生するわけで、その中で農家と学校、行政の3者が連携して、地域に適した作物の研究と推進が出来ないか考えています。それができれば安塚区の特産品が開発され、特産品が生まれれば、そこに関わる人たちも増え、若い人たちが空き家などを活用してくれるかもしれません。自分でも何を植えたらいいいのか考えていますが、結論はでていません。特定非営利活動法人NP0 雪のふるさと安塚では、キハダの木の利活用を推進されていますが、キハダが適しているのであれば、その植栽を推進すればいいし、いろいろな作物があると思いますので、市の協力を得ながら学校とタイアップしてやる事が出来ないかと思っています。

（参加者）

農業の関係では、資料にあるようにスマート農業の推進がありますが、その他に有機農業をはじめとする環境保全型農業の推進にも取り組んでいただけないかと日頃から考えてい

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【安塚区】意見交換の内容

ます。私は区内で農薬や化学肥料を使わない米作りを行い、それを市内の酒蔵でオリジナルの酒にするといった取組をしています。ご承知のとおり中山間地域の農業は非常に厳しい状況ですが、環境は豊かです。その環境を活かした、環境と共生するような農業は土地にも価値があり、商品にも付加価値がつくと思います。また、担い手が非常に少ないという状況の中、若い人で新たに農業をやりたい方の中には、環境保全型農業や自然農法に関心のある人も多いです。有機農業だけではやっていけないという点は私も承知していますが、国は将来、農地の4分の1を有機農法にする方針を掲げており、そうした流れに対応していく必要があると思います。上越市にもぜひ積極的に取り組んでいただきたいです。具体的には、国の制度であるオーガニックビレッジ宣言があります。自治体がオーガニックを推進すると宣言して計画的に取り組む、それを国が支援する制度です。県内では現在5つの自治体が宣言をしておりますが、主に佐渡や下越地方の自治体であり、最近では中越地方の津南町が宣言をしましたが、上越地方ではまだ宣言はありません。まずは、その宣言をして、それに基づいていろいろな取組を進めていただきたいと思います。有機農業の導入は様々なコストが必要です。大規模にやればコストは下がるかもしれませんが、安塚区のような中山間地域ですと非常にコストがかかります。支援制度の整備や、子どもたちに有機農産物を食べてもらうために、学校給食で積極的に活用する取組もあるようですので、そういったことも含めて市として力を入れていただけないでしょうか。

また、関連して有機 JAS 認証があります。認証を受けていないと「有機農産物」と表示できませんが、認証手数料が非常に高いため躊躇してしまいます。上越市では従来からその費用の2分の1を補助する制度がありましたが、今年からなくなってしまったと聞いています。また、新規取得者だけ補助いただいたとしても、2年目以降もほとんど同じくらいの費用がかかります。費用の補助制度があるとより積極的に取り組めるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

（安塚区総合事務所長）

質問、意見について、一度整理をさせていただきます。一つ目はデータセンターの誘致、次は農学連携による特産品の研究と生産、それから環境保全型農業やオーガニックビレッジ宣言の推進と有機 JAS 認証制度への市の補助に関するご意見でした。

（市長）

データセンターについては市としても非常に重視しており、いろんな企業の方々と相談をしています。非常に成長が見込める分野だと考えており、真剣に検討しています。

それから、オーガニックビレッジ宣言については、存じ上げませんでしたので確認します。特産品の話とも関連しますが、そうした取組で販売することは大きな可能性があると思いますので、研究させていただきます。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【安塚区】意見交換の内容

また、有機 JAS 認証の申請に対する補助金がなくなったことは、私も知りませんでしたので確認します。中山間地域の農業は、それだけで経済的に自立するのは難しいです。国からも、食料安全保障や農家への直接支援、国土強靱化など、いろいろな名目でサポートや補助金が出ていますので、それらを利用いただきたいと思います。上越市でも、棚田米のロゴを作りました。そういうものを使ってブランド化していくこと、先ほどのオーガニックビレッジ宣言のお話や、例えば「雪むろ米」など、ブランド化が大事だと思っています。

特産品について少し雑談になりますが、ホワイトアスパラガスは皆さんご存知ですか。ドイツなどではとても人気がありますが、太さがあり、土寄せして日に当てずに育てます。それを茹でて、生ハムを添えたり、ウィンナーシュニッツェルを合わせたり、少し酸味のあるソースをかけますが、あれを売れないかなと思っています。安塚区で生産は出来ませんか。今のは雑談ですが、いろいろな特産物等々、また皆さんで研究いただきたいですし、私も研究をさせていただきたいと思っています。

また、先ほどのオーガニックビレッジのお話は大変参考になりましたので、検討させていただきます。

（参加者）

地域協議会では、旧安塚中学校にやすづか学園を移転し、上越市におけるインクルーシブ教育の拠点にしたいという展望を持って 2 年近く議論してきました。ところが折から資産活用課のプロポーザルの施策が入り、現在議論を凍結し、市議会 6 月会議の議決をもって決着をつけたいと思っています。一方で、上越市において、不登校児童・生徒は増加傾向にあり、現在 600 人を超えていると聞いています。この事実は大変深刻で、看過できない事態なのではないかと思います。そこで、30 年間ノウハウを積み上げてきたやすづか学園を核に、誰一人置き去りにしない教育を実践していただくことを要望します。実践いただくには、市長のリーダーシップの下で学園施設の視察を行い、実情を調査・検証した上で、福祉と教育の両面から抜本的な見直しを図っていただきたいと思います。そして最後になりますが、子どもたちやその家庭に、行政の温かい支援を届けていただきたいと思います。やすづか学園は安塚区にとって大事な社会資本ですので、どんなに規模が小さくなくても全体で支えていきたい思いがあります。

（市長）

やすづか学園については、ご意見のとおり不登校の生徒にとって大変重要な施設であり、存続や学校運営については市として意を用いて取り組みたいと思います。不登校生徒については学びの多様化学校として市立諏訪中学校が今年 4 月から設置され、不登校の中学生を受け入れています。そこをさらに充実させて対応していきたいと考えています。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【安塚区】意見交換の内容

(参加者)

学びの多様化学校は定員 24 名です。不登校児童・生徒が 600 人超の中でそれをどう対応するのでしょうか。

(市長)

まずはスタートですから、それをこれから増やすということです。

(参加者)

それだけでは対応できない部分も含めて、せっかくノウハウを積み上げてきたやすづか学園があり、私どもも最後まで残したい社会資本だと考えていますので、ぜひこのノウハウを生かして、不登校の子どもたちに機会を広げていただければと思います。

(市長)

私も全く同意見です。先ほど申し上げたとおり、十分に意を用いて取り組んでおります。